機関紙　たいとう　に
皆様の記事を
お寄せ下さい！

採用された方に
５００円分クオカードを
プレゼントします。

たいとう

東京土建一般労働組合
台東支部
〒110-0012 台東区竜泉1-15-2
Tel:03-3876-1966 Fax:03-3875-5965
Mail:taitou@tokyo-doken.or.jp
HP:http://doken-taito.jp
編集　遠藤　顕寛

3月は税金について考える時期です

コロナの影響で経済不況が続きます。日頃税金について考える機会が少ない人も、この確定申告の時期は、否応なく意識をするのではないでしょうか。

支部でも税金に関する活動が増える時期です。税務署との交渉と税研修会に参加した報告を紹介します。

納税者の権利を守るために

例年開催している税務署交渉を浅草民商・台東民商・台東区労連・生活と健康を守る会の共同主催団体5団体で、2月17日に東京上野税務署、浅草税務署でそれぞれ行いました。毎年「3・13重税反対区民集会」の事前打ち合わせを兼ねた交渉にもなっています。

今回は①景気回復のための消費税5％減税を求めること②新型コロナ関連給付に関して課税をしないこと③税務調査に関しての事前通知の徹底や調査の柔和な対応を求めることなどを申入れ書に記載、代表として台東民商の方がその場で読み上げました。

回答としては両署ともに「意見として上部組織へ上げるが、執行機関である我々（税務署）では、法律を変えることはできない」という定型文のようなものでした。

その後、意見交換の場となり、２０２１年10月に番号登録が開始したインボイスに関して「零細業者はインボイス制度によって、なくなってしまう可能性がある」「税理士の方でも複雑だという意見がある」「改めて現場の生の声を国税庁に届けてほしい」という各自の切実な声を投げかけました。

実際に意見が上部組織に届くかは疑問が残りますが、現場の私たちの声を今後も継続して伝えていかなければならず、来年の交渉に向けて皆さんからの意見をお待ちしております。

総務課長に申入れ書を手渡しました

税金って一体何？

今年も確定申告の季節がやってきました。それに先立ち1月29日・30日「いのちとくらしを守る税研集会」に参加してきました。税に関する日本と世界の国々の税収や税率の比較、なぜ税金は存在するのか等の講演が2日間にわたって開催されました。

二日目の分科会では税理士の小田川豊作氏による「税の入門」の講演でした。印象深い話として、個人の確定申告は確定申告用紙に必ずしも記入する必要がなく、過去には実際に三越の包装紙のウラ紙に書いた人や巻紙に書いて提出した人が居たそうです。税務署側はそれを拒否することができない、申告用紙以外に書いてはいけないという法律が無いからだそうです。ただし法人税の申告は所定の用紙に記入しなければならない法律があるとのことです。また、税に関する研究者が言った言葉として「日本の納税者は税がどのように決められ、納めた税がどのように使われているかをあまり知ろうとしない。国際的にみても日本人ほど自国の税制に対し関心の薄い国民はいないだろう」と紹介されました。その原因を「世界に冠たる源泉徴収システム」にあると指摘します。給与所得者は源泉徴収により納税することになり、自己申告することはありません。

では源泉徴収はいつから始まったのでしょうか。このシステムを考えたのはナチスドイツであり、戦費の拡大によりその費用を徴収する手段として考えたといいます。それを真似たのが戦前の日本であり、１９４０年の４月１日に導入されたそうです。それが現在に至るまで続いているのです。

そして年末調整制度は昭和22年の戦後の混乱期に始まり、こちらも現在まで続いているということになります。納税は国民の義務ですが、税の在り方や使用目的、徴収方法などに関心を寄せてみていく必要があるでしょう。

松が谷分会　杉本良信

税研集会会場の様子

第六十五回定期大会　告示

第六十五回台東支部定期大会にあたり、組合規定に基づき支部役員職について、次のとおり告示します。

２０２２年3月12日
大会選挙管理員会

執行委員長	１名
副執行委員長	４名
書記長	１名
書記次長	１名
常任執行委員	11名
会計監査	２名
執行委員各分会	４名

【立候補受付期間と場所】
２０２２年3月25日
午前10時から
２０２２年4月8日
午後9時まで
場所　支部会館2階

【大会告示】
東京土建一般労働組合
台東支部第65回定期大会を下記により開催します。

【大会日程と会場】
日程
２０２２年4月10日
午前9時３０分開会
会場
台東区民会館

【代議員】
各分会基礎代議員2名

五重塔

「鼻ほしい」

手習い素読の稽古をしている浪人。粋な遊びが過ぎて鼻の障子がない。「子どもたちに本を読んでも、声が鼻に抜けて思うようにいかない。自然、恥ずかしがって外出もしない。心配した細君が四、五日湯治をすすめ、浪人はこっそり江戸を発つ。

途中馬に乗り、馬子の頭の禿げをみて「禿山の前に鳥居は無けれども、後ろにかみが一寸（ちょっと）まします」と狂歌でからかう。からかわれた馬子が「山々に名所古蹟は多けれど、はなのないのが寂しかるらん」とやり返す。立腹した浪人はその場で馬をおり、憤然として帰宅してしまう。

浪人からこの話を聞いた細君は、血相変えて薙刀（なぎなた）を手に取って飛び出していく。浪人が「こりゃ待てと申ふに」

「いえ、わたくしは口惜しゅうございます」

「そのほうは口惜しいか、ああ、、わひは、はにゃがほひい」

（E）

都立病院を独法化させない
区立台東病院は廃止させない

２月22日のお昼過ぎ、都庁第一庁舎前に「都立・公社病院の独立行政法人化（以下都立病院独法化）の中止」を求めて５００人が埋め尽くしました。

コロナ感染拡大の第６波のさなかでありながら、反対の声をあげるために参加者が各自感染防止に努めて集まったものです。コロナ収束の見通せない中なぜ今都立病院独法化を進めようとするのか、小池都知事は都議会で答えようとしません。２年以上続くコロナ禍で、医療体制を維持し都民のために大きな役割を果たしたのは、都立・公社病院にほかなりません。独法化されれば採算優先の運営になり、医療体制が大幅に後退することは明らかです。

大阪府では２００６年に５つの府立病院が独法化され、経営が優先された結果、医療体制が崩壊の危機にあります。コロナ感染者の死亡率が大阪府は突出して高いことからも、府立病院の独法化が失政だったことが見て取れます。

さらには東京都とは別に、国は医療費抑制と医師不足を理由に、全国の４３７公立・公的病院の再編統合を策定しようとしています。区立台東病院も対象になっており、この集会において再編統合の見直しを寺山委員長が訴えました。

台東病院の存続をうったえる寺山委員長（左）
右隣りは宇都宮弁護士

５０ｃｃカブの旅
～四国周遊記②～

～前回からの続き～

日曜日で給油できるか不安でしたが、予備タンクも満タンに出来、安心して出発できました。

室戸岬の手前10キロくらいのところにある廃校水族館に向かいました。文字どおり廃校になった小学校をそのまま使っており、保健室の人体模型と並んで水槽や剥製が展示してあったり、プールがそのまま生け簀になっていてハンマーヘッドシャークがそのまま泳いでいるのです。体育館にある跳び箱の中が水槽になっているなど、楽しい水族館でした。

岬はゴツゴツの岩だらけで、見上げるとはるか上のほうに灯台があり、かなり回り込まないと辿り着けそうもありません。途中に寄ってみたい寺社や見たい風景がありましたが、パスして高知を目指しました。

廃校を利用した水族館

高知市内の手前で桂浜の看板が目に付いたのでまずはそちらに向かいました。浦戸大橋を渡ると景色は一変し、ホテルや民宿などが全くなさそうな場所でした。

10月なので日の暮れるのも早そうなので、高知駅を目指して急ぎましたが、市内には泊まりたいと思えるような旅館やホテルが見つかりません。不安になったため自宅に連絡し、家人にパソコンで宿泊施設の検索を頼みました。高知駅から１キロほど南下したところに手ごろなホテルがありそうだとの連絡が入りました。向かってみると実際に手頃な料金で部屋が取れて安心しました。

荷物を部屋に運び込み、その後近所を散策してみると、有名な「はりまや橋」まで４００メートルくらいの場所でした。コンビニでおにぎりを買い、昨日の残りの焼酎とつまみで夕食を軽く済ませました。本日の走行距離は１４０キロ程度でした。

朱色に塗られたはりまや橋

松が谷分会
Ａ・Ｉ

若手の声を集める取組み

50才未満の仲間の声を集めるために、昨年８月より半年間に渡りアンケート集約に取り組んできました。本部が作成したＱＲコード付きのアンケート用紙を活用し、普段接点の少ない事業所の若手組合員や後継者世代からの回答を集めました。

仕事にやりがいを感じている反面、労働時間の長さや休みが少ない等の悩みも書かれていました。また、大規模現場に従事する組合員からは、朝礼時や詰所での休憩時間におけるコロナ感染防止対策に関する不安も寄せられました。

アンケートで得られた結果を、今後の組合活動に反映させていきます。アンケート回答者に抽選でプレゼントが当たる企画もあり、台東支部からは２名が当選、復興支援カタログギフトや体組計が贈られました。

当選した及川さん親子

工務店勤務の坂本さんも当選です

ライトシルバー総会

２月25日にライトシルバー総会を開催しました。コロナ感染防止のため、短時間での議事進行となりました。新しい役員体制は以下の通りです。

会長　福田 俊昭㊊
副会長 新井 茂㊧
副会長 石橋 悦夫㊊
事務局長 今井 彰㊊
会計　杉本 良信㊧

退任された小宮会長、豊田事務局長